

第 58 期 事業報告

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

当法人はこの地に昭和 30 年に移転以来、地域社会の福祉増進のために医療事業を行い、あわせて地域住民の生活向上を図ることを目的に、生活困窮者の助成、病院の運営、福祉、介護、教育事業などを展開、これらを通じて、いかにして地域の方々のお役に立てる活動が出来るかを追及してまいりました。現在では公立または公的病院のないこの御殿場市・小山町に、3 病院を運営し、2 次救急の約 8 割を担当、耳鼻科・精神科を除いて重要な科目は不採算であろうとすべて開設し、3 病院と訪問看護事業、介護事業の緊密な連携体制の下に地域に貢献する法人として活動してきました。

法人制度の改革にあたり、この改革が今までの活動を見直す絶好の機会と捉え、今後更に地域の皆様に愛され、必要とされる法人となるべく、地域社会の福祉を増進する事業に積極的に取り組んでまいります。

医療を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあります。

期待された 24 年度の診療報酬の改訂は、大病院にとっては有利な面が多々ありますが、利用者のために複数診療科を持つ 200 床以下の病院の運営は、依然として厳しく、また、静岡の東の端、東京、神奈川からは箱根を越えた地、というイメージで医師招聘は以前にも増して厳しい状況が続いております。その様な状況の中で、開校依頼 8 年の歳月をかけて運営に全面的協力をしてきた御殿場看護学校の卒業生が、看護師として 3 病院で活躍し、看護の質を高め、医療の充実に繋がったことは喜ばしいことです。今後の地域の発展を考えたときに、このような教育問題にも、法人として深くかかわっていききたいと強く考えております。

富士病院は 57 期(22 年度)に引き続き赤字となりました。3 ヶ年をかけた耐震化工事の一期工事の影響はあるものの、数字的には 1 億円近い赤字となり、職員の賞与引当金を計上出来ませんでした。他の会計にも赤字部門があり、法人全体としても赤字決算となりました。職員一同、59 期の目標を達成するよう努め、この難局を乗り切る覚悟でおります。

富士小山病院は、介護療養型の今後の問題はあるものの、富士病院、東部病院との連携を強めてまいりました。医療介護サービスの充実、適切なコスト管理の下、老朽化しつつある建築の準備資金である修繕引当金を確保しております。

また、東部病院は、救急医療の存続にコストがかかり、赤字決算となりま

した。富士病院の工事期間中の診療受け入れなど連携体制も取れ、一体としての病院運営が出来た面はあるものの、今後は外来・入院診療の充実を更に図り、慢性創傷ケアチームなどの特色の明確化するとともに、経費を見直して、経営の健全化をさらに推し進める必要があります。

訪問看護ステーションは、地域で唯一のステーションであり、利用者も増加、利用者数は120名を越えるほどになりました。病院利用の方が多く、しかも重症者が多いため、点滴、処置の頻度は他と比較にならないほどで、夜間呼出も多く、スタッフの負担軽減を図りながらの運営でした。

グループホームは、入居高齢者の身体的体力の低下や、認知症の重度化も進んでいる中で、さまざまな事態に対して、スタッフの対応能力の向上を図るとともに、日常生活援助・介護能力を上げるため努めてまいりました。その様なこともあってか、医療必要度の高い方の入所が多くなり、病院の入退院を繰り返す入所者があり、入院中の空きが増え、運営面では大きな赤字となっていました。このような利用者は、他のグループホームではとても受入出来ず、本人・家族の希望とは別に、入院しっぱなし介護施設に入所となります。経営面では厳しいことですが、このような利用者を救済することが当法人におけるグループホームの大きな役割の一つと考えております。

今期、医師会、行政、他の医療機関・施設と徹底した連携を図り、住民がスムーズに医療機関・施設を利用できる体制づくりに尽力しました。また現在県で押し進めている地域医療再生事業について、当法人の3施設特に富士病院は、2次救急施設として重要な役割を担っており、3次救急の負担軽減に繋がるよう広域救急にも参加協力しました。

各事業について

1．生活困窮者に対する医療援助

生活困窮者に対しては、治療費など一部負担金の減額及び免除を例年通り実施しました。

2．教育文化活動

病院、介護事業を運営する上で重要な担い手である看護師、その他のコメディカルスタッフの教育、育成に本年度も引き続き取り組みました。

看護学生教育、育成事業

地域医療に貢献できる看護師を養成するため看護学生に対し各病院において奨学金を支給しておりますが、23年度は御殿場看護学校の

学生に全体で、3年生 12 名、2 年生 10 名、1 年生 13 名合計 35 名に奨学金の貸与を実施いたしました。

富士病院 (3 年生 11 名、2 年生 9 名、1 年生 9 名)

富士小山病院(3 年生 1 名、2 年生 1 名、1 年生 1 名)

東部病院 (1 年生 3 名)

御殿場看護学校以外では、東部看護学校 3 年生 1 名、湘南平塚看護専門学校 2 年生 1 名がおります。

御殿場看護学校の運営

御殿場看護学校の運営を御殿場市医師会病院部会（9 病院）で行っていますが、当院はその中心として支援活動を行い、計 12 回の病院部会会議を主催し、病院部会と看護学校の連携の役割を担いました。今後も地域に貢献する看護師に育成すべく、各病院との協力体制をとりながら運営に当たります。又、非常勤講師として、法人全体で 33 名を派遣しました。

御殿場看護学校の実習受入と指導者養成

御殿場看護学校の実習病院として看護学生の指導に努めました。病院の実習指導体制として、今年度の実習指導者は、富士病院 24 名、富士小山病院 12 名、東部病院 10 名、訪問看護ステーション 1 名計 47 名おり、指導者としてその任に当たりました。県の指導者講習会は、今年度は開催されませんでしたが、実習指導体制充実のため、今後も機会あるたびに受講させてまいります。

昭和大学の医学部を含む 1 年生の初年次体験実習

昨年 21 年度から受入を始めましたが、富士病院において、本年度は、9 月に 5 名の班構成で 9 班の学生の実習を各病院にて、延 9 日間合計で 45 名の学生の研修を行いました。

医療従事者・救急救命士の育成

各種専門学校と連携して、薬剤師・理学療養士・検査技師・社会福祉士・栄養士・看護教員・医療秘書の実習を受け入れて、医療従事者を育成し地域医療の質の向上に努めました。また地元消防と連携し、救急救命士就業前後病院研修を受け入れ、指導教育を実施しました。

講師派遣

東海大、北里大学、東部看護学校を始め大学・専門学校に非常勤講師として医師、看護師、技師を派遣しました。

「1 日ナース体験学習」の受入

高校生を対象に、県の事業である「1 日ナース体験学習」を受け入れ、将来の看護師育成につなげました。(富士小山病院 3 名)

学術講演会

学術講演会を 5 回計画し、御殿場小山地域の病医院等に参加を呼び

かけました。

小中学校の児童生徒の体験学習受入

小中学校に協力し、各病院にて中学校生徒を中心に小学校児童を含め、複数回体験学習を実施しました。

各種学会の発表

各種学会の発表を医学の発展のため、積極的に行いました。

自然震災支援活動

東日本大震災・小山町豪雨災害が今年度発生し、当法人としていち早く義援金支援・救護班の派遣・物資の発送等実施しました。東日本大災害においても、職員派遣を決定し義捐金や文房具、生活必需品を送るなど被災者の支援を行いました。

職員は各種団体において、法人の目的を達成する為、文化・教育・医療・福祉その他の発展に寄与するように積極的に各種活動に参加しました。たとえば音楽を通じて広く市民の生活に潤いと安らぎを与え、健全な心と身体を育成する目的で、マウントF U J I交響楽団に練習の場を無償提供（合計 20 回）しました。また富士山の世界文化遺産登録を進める会の会長に法人理事が就任、駅東地区まちづくり懇話会・バリアフリー基本構想策定懇話会の会長・座長に理事が就任するなど地域活動にも中心として参画しました。また各種学会においても発表・座長等、重要な役割を果たしました。

3. その他地域住民の為の活動

無医地区の医療継続活動

平成 22 年 2 月末に小山町町長より強い要請をうけ、又、御殿場市医師会長からも、何とか地域医療の継続に協力するよう要請もあり、管理医師が不在となる足柄駅前クリニック（公設民営の施設として、平成 12 年 5 月開設した無床診療所、山間部の人口も少ないこの地域で開業する医師は、長年かけてやっと見付き、運営していた。）656 世帯 2,122 人の健康と安全を確保することは有隣厚生会としての役割も考え、招聘活動を開始しました。しかし個人開業をする医師は見つからず、やむなく富士病院の常勤医師の日程を変更し、富士病院を退職、管理医師として、足柄駅前クリニックに勤務してもらうこととした。更に足柄上病院にも依頼し、整形外科医師を週 2 日派遣してもらった。人口が少なく、赤字経営が続いておりますが、地域住民のために継続していく方針です。

地域の方々に対し、病気の知識向上と健康で生きがいある生活が過ごせるよう各病院・施設で地域の方々とはふれあい事業を展開しております。

富士病院の『看護の日』、富士小山病院の『健康フェスタ富士小山』、東部

病院の『しゃくなげ祭』、グループホームの『地域・家族親睦会』を開催しました。（富士病院については建築関係で開催できませんでした）

また、民法法人から新法人制度への移行につきましては、申請書類等の準備作成を進めており、定款の案や法人の事業等について県庁の医務課と事前協議をしてまいりました。まだ事前協議の段階であります但公益法人認定に向けて更に医務課と詰めをしてまいります。

4．富士病院の事業

10年前、地域の方々が、診療で不安を感じている疾患は、心臓疾患と小児医療、消化器医療でした。そのため当院では、心臓疾患を地域でカバーできる「循環器病センター」立ち上げを目指し、24時間365日の緊急体制を構築、狭心症のカテーテル治療、心臓バイパス術、心房細動のアブレーション治療など年々機能を充実させ、現在では循環器の最先端医療を提供できる体制が整備できましたので、大勢の方々の救命に繋がりました。

小児科医療に関しても、大学から常勤医師2名と非常勤医師6名を派遣してもらい、夜間週2日当直と他の日の待機、救急医療センターへの派遣など地域で唯一の入院受け入れ施設として診療してきました。

また消化器領域においては、緊急内視鏡検査・治療、手術が可能な施設は他に無く、今年度「消化器病センター」として必要な施設整備を実施しました。消化器科の常勤医師2名と消化器外科の常勤医師3名、非常勤の検査のみの医師6名が診療に当たり、緊急の吐・下血対応も改善しました。

さらに医師不足の象徴的現場が救急医療ですが、第3期工事完了時に完成するICU/CCUの機能により救命率を上げられるよう救急医・麻酔医の採用が急務となっています。

また、眼科において白内障手術のできる施設は、地域では当院と富士小山病院の2箇所しかないので、手術件数も急激に伸びました。増加する透析患者の合併症対策病院としての機能を腎臓内科医が担当していますが、循環器、消化器、眼科、脳外等各領域の専門医が合併症をカバーしています。

糖尿病、呼吸器患者も順調に増加し、外科も緊急手術をはじめ専門的分野の診療対応を実施、地域医療へ貢献しました。泌尿器は手術を含め、当院しか入院受け入れが出来ず地域になくなくてはならない科として信頼を得ております。整形外科はその技術を高く評価されています。内科を始

め各診療科の充実は病院の信頼を高めました。。

又予防医学の中でも、生活習慣病の中核をなす糖尿病に関しては、富士小山病院とともに地域で一早くチームでの指導管理を推し進め、多くの糖尿病療養指導士を育て、地域の糖尿病の啓蒙活動・指導に貢献しました。

企業健診事業については、21年3月に購入した胸部健診車と24年2月末更新した胃部レントゲン総合健診車の2台を保有し、3病院の健診事業の展開を進めてまいりました。地域の企業で健診利用の数は、順調に増加し、働く世代の方々が病気の予防・健康管理を通じて、病院にて診察する機会を提供し、又当院機能を利用した早期発見、治療、手術に繋げる事が出来たことは大変有効でした。今後も当院の健診事業は診療と一体となって働く世代を守る健診として、広く利用していただける方法を検討して参ります。

人材の育成は、最重要課題であります。御殿場看護学校の運営、コメディカルの実習受け入れ、各種研修と教育に積極的に参加させ、医療技術の向上に研鑽を積ませました。この育成こそが、今後における病院運営の重要な要素であり、当院だけでなく、今後当院から地域の医療機関に羽ばたき、そこで貢献できる人材を要請する目標実現に欠かせないものであります。

さらに、行政、医師会との連携を重視し、紹介件数も増加しました。地域の基幹病院として、各種検査 内視鏡・エコー・脳波・緊急血液検査等 とレントゲン（CT・MRI・カテーテル検査等）の依頼を受け、結果をお返しするオープンシステムの活用も進み、専門性の高い開業された診療所の先生方が富士病院の施設を利用して、診察・手術・検査する連携も増加してまいりました。

しかしながら工事中で患者紹介を受け入れ出来なかったケースが発生し、さらに4月計画停電の影響で入院、外来とも伸びず、結果として平成23年度の入院患者数は113人（昨年と同数）外来数は、458人（昨年より12人減）と減少しました。担当医の退職で一時的に心臓カテーテル治療の減少もあり、日当点が大きく減少、9,931万円の赤字となり、賞与引当金の計上も実施できませんでした。7：1看護基準は維持しましたが、入院の日当点減少は前年度比8.3%減で、これが最大の赤字原因です。外来収入は4.8%増加し、その他医療収入も11.3%増加しました。カテーテル治療の減少による診療材料の減をはじめとした支出の減少はあったものの、建築に関わる消費税に加え、固定資産売却除却損が加わり最終結果と成りました。法人全体の運営にも関わる赤字ではありますが、一時的な要素も多く含んでおり、循環器体制は今まで以上の体制が構築できました。

病院の増改築事業につきましては、順調に一期工事を終了し、26年1月までの計画で進めております。設備、機器等の整備はこれに並行する形で進め、結果としては赤字の一要因となりました。

詳細な診療実績報告は年報を作成し、一部ホームページでお知らせしております。

なお、救急については夜間休日対応件数 1,547 件、内小児救急件数 86 件、年間救急車搬送件数 779 件でした。

広報広域活動

「富士病院」が急性期病院として地域の方々に信頼され、安心して利用していただけるよう、さまざまな広報活動を実施。また活動を通じて、病気予防の啓蒙活動を行ないました。さらに、各種団体のメンバーとして活動し地域医療・福祉の向上に努めました。

看護学生教育、育成事業

当院は御殿場看護学校の運営を御殿場市医師会病院部会（9病院）の中心として支援し、教員等の採用などにも関わり、地域に貢献する看護師に育成に全力で傾注しました。東部看護学校、小田原看護学校などの看護学校の学生に対しても奨学金の貸与を積極的に働きかけました。

御殿場看護学校の運営

若林院長は御殿場看護学校の運営の病院部会代表（副校長）として、御殿場看護学校運営会議に毎月参加（事務局長も参加）、看護学校連絡会には事務局長が毎月2回参加し、学校の運営に尽力しました。また当院が中心となり、毎月御殿場市医師会病院部会（9病院）を主催し、看護学校運営に部会として一つにまとまる様に努めました。当院から非常勤講師として、医師12名、看護師7名、薬剤師1名、放射線技師1名、SE技術者1名、社会福祉士1名を派遣しました。又看護学校の運営で赤字の際は法人が主な負担をすることになりますが、今期は負担金0でした。

御殿場看護学校の実習受入と指導者養成

御殿場看護学校の実習病院として実習指導者24名が中心となり、看護師養成に努めました。今後も、職員を指導講習会に参加させるなど実習指導の体制充実に努めてまいります。

昭和大学1年生の初年次体験実習

昭和大学の学生（医学部・歯学部・薬学部・保険医療学部）の1年生に対し、9月14日から30日の期間に5名の班構成で9班の学生（延べ45名）の実習を行いました。医療従事者としての初めての初期研修です。

ので、夢を与え、今後の勉学の活力になるように心がけました。

医療従事者・救急救命士の育成

本年も将来を担う医療従事者を育成する為、各学校からの院内実習受入を積極的に実施、技術者の育成に努めました。

理学療法臨床実習（富士リハビリテーション・常葉医療専門学校、浜松大学）

臨床工学技師（東海大学開発工学部医用生体工学科）

東京衛生学園専門学校看護学科（通信制）

また救急の現場で重要な役割を担う救急救命士育成の為、以下の事業に参加しました。

救急救命士の就業前研修

5月9日～20日と5月23日～6月3日の10日間2名

救急救命士の就業後研修

1人2日間 延べ12名実施

講師派遣

学校の非常勤講師として各大学に派遣を実施しました。東海大学1名、昭和大学2名、平塚看護専門学校1名、北里大学保健衛生1名、

「1日ナース体験学習」の受入

県の事業である「1日ナース体験学習」は、将来の看護師の育成につなげる事業として、高校生を対象に受入していますが、今年度は対象者がありませんでした。

学術講演会

学術講演会を計画し、専門職の方、一般の方に参加を呼びかけました。また健康大学などを通じて各種疾患の知識啓蒙活動を実施した。

小中学校の児童生徒の体験学習受入

小中学校に協力し、中学校生徒を中心に小学校児童を含め、複数回体験学習を実施しました。

各種学会・研究会の発表

各種学会の発表を医学の発展のため、積極的に行い、職員の医術向上にも役立てた。

下記各種団体のメンバーとして医療関係を中心に活動し、その発展に寄与しました。そのほか各職域での地域活動にも各部署で積極的に参加を促し、その他にも音楽を通じた教育文化活動、検眼活動、地域の都市開発の評価・提案など未来の都市づくりにも参画しております。

御殿場市医師会理事

御殿場看護学校副校長

御殿場市医師会病院部会代表

静岡県病院協会監事

東部緩和医療研究会世話人（3名）

御殿場・小山障害自立支援協議会委員 1 名
静岡県看護連盟御殿場支部支部長
日本消化器内視鏡技師会東海支部会長兼静岡支部会長
御殿場看護学校(非常勤講師 23 名)
静岡県臨床検査技師会支部役員
日本超音波検査学会代議員 1 名
静岡県医療ソーシャルワーカー協会理事
静岡県放射線技師会東部地区役員・北駿支部長
静岡県放射線セミナーマネジメント(技師会長)監事
御殿場市小山地区MC協議会委員
御殿場市小山地区MC協議会運営部会副部会長
御殿場市小山地区MC協議会症例検討部会委員
広域救急医療体制構築委員会委員
日本糖尿病学会学術評議委員(中部地区)
マウントFUJI 交響楽団団長
静岡県給食協会御殿場支部理事・副会長
御殿場駅東地区まちづくり懇話会委員
御殿場市バリアフリー基本構想協議会委員
御殿場市バリアフリー基本構想懇話会構成員・副座長
御殿場市国保運営委員(2名)

5 . 富士小山病院の事業

. 収支状況

小山町唯一の病院として、地域の皆様とふれあいを大切に、職員一同、医療介護サービスの充実、業務の効率化、コストリダクションを一致団結して、推し進めてきました。

医業収入は、外来収入が 393,158 千円(予算比 4.0%減)、入院収入が、614,916 千円(予算費 2.0%増) となり、結果総額 1,008,074 千円(予算比 0.4%減)の対予算 4,583 千円(予算比 0.4%減)減額となりました。詳細は、外来においては、内科患者の増員と透析患者の減員により、一日平均患者数は 176 名にて、予算目標 174 名と微増となったが、一人当たりの診療単価 7,691 円と予算 218 円減額となってしまう。結果、予算目標を 16,518 千円の減収(前年に対しても 2.1%減、8,402 千円減額)となりました。入院に関しては、急性期病棟が、一日平均入院患者数が 24.7 名と予算目標を達成し、平均単価も 31,893 円と予算 714 円増となり、予算比 2.9%増の対予算 8,134 千円増収(前年に対しても 3.4%増、9,530 千円増額)となりました。療養病棟は、年間平均稼働率 98%と予算目標を達成し、平均単価 297 円増により、予算比

1.2%増の3,801千円の増収(前年に対しては0.2%減、803千円減額)となりました。他、予防接種(肺炎球菌)の減少、介護処遇改善交付金等の補助金増加等により、医業収入全体で、予算比0.6%増額の6,149千円の増額と、目標額を達成致しました。

医業費用については、予算額より4,507千円(予算比0.4%減)下回りました。詳細は、給与費は予算比0.9%減、材料費は予算比9.4%減(コストリダクション等)、委託費は予算比1.8%増(CT管球修理による保守料3,300千円)、諸経費は予算比11.7%増(建物及び付属設備等の老朽化による故障点検修繕10,056千円、備品の修理故障、計画停電に対する備品の調達等3,831千円等)、減価償却は予算比12.5%増(眼科検査機械、エコー、リハビリ機器等老朽化による故障更新により)となります。

以上の結果、当期は83,872千円(予算比111.5%増)利益計上となりました。

・広報広域活動

「富士小山病院」が地域密着型病院として地域の方々に定着するよう、さまざまな広報活動を行いました。また、各種団体のメンバーとして活動致しました。

東日本大震災支援活動

3月11日の東日本大震災をうけ、昨年度に引き続き下記支援等を行いました。

1.人的支援

4月6日～10日	岩手県山田町	山田南小学校	看護師1名
4月13日～17日	宮城県気瀬沼市	岩松公民館	看護師1名
4月21日～25日	岩手県山田町	老人保健施設平安荘	看護師1名
4月25日～29日	福島県郡山市	ビックパレット	看護師2名

2.物的支援

4月16日 岩手県立山田病院へ食品や生活消耗品の現地搬入、及び、山田町へ孤立した被災者に当院への看護助手としての就業及び独身寮を提供する旨の手紙を持参

3.広報活動

災害の現状や活動報告を行いました。

4月14日 御殿場看護学校

5月17日 介護支援専門員連絡協議会

6月28日 静岡県看護協会

10月1日 静岡県看護協会東部地区支部

富士小山病院 健康講座 2011(健康フェスタふじおやま)

6月6日に小山町総合文化会館菜の花ホールにて、当院主宰による恒例となりましたイベントを開催いたしました。地域の方々を対象に、当院内科医師前畑昌司による講演「中医学って、なんだろう?～西洋医学で治らない病気を中医学で治す～」をはじめ、地域でご活躍されているユニット MOMO のハンドベル

演奏を行い、過去最高の 200 名方々にご参加いただき、非常に盛況に終えることができました。

看護出前授業

6月17日 裾野高校 1年生13名 テーマ 看護の仕事

8月27日 御殿場市 夜間防災訓練 AED指導

9月12日 御殿場中学校 2年生70名 テーマ 職業講和

看護学習体験受け入れ(1日ナース体験) 静岡県ナースセンター事業

7月26日 (高校生 3名)

介護体験学習受け入れ

6月27～28日 (人材センター 一般男性 1名)

8月2～3日 (北郷中学校2年生 1名)

8月2日 (御殿場西高校3年生 2名)

8月3日 (御殿場西高校3年生 3名)

11月9～10日 (須走中学校2年生 1名)

11月9～10日 (御殿場中学校2年生 5名)

11月17日 (小山中学校2年生 4名)

救急救命士就業前後病院研修受け入れ

12月6日～15日 4名

療養病棟の催し物として、花見(4/16)、敬老会(9/3)、療養入所者忘年会(12/10)等を行い、患者様をはじめ、ご家族、地域のボランティアの方々にご参加いただき、交流を図りました。

11月29日から12月3日に、御殿場西高等学校海外修学旅行の引率に看護師1名を派遣しました。

3月28日から3月29日緊急人材育成支援事業による2名のホームヘルパー2級過程の職業訓練実習の受け入れをしました。

下記各種団体のメンバーとして活動しました。

御殿場小山介護保険認定審査会(委員1名)

御殿場市介護保険運営協議会(委員1名)

御殿場市国民保護協議会(委員1名)

御殿場市第6次高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画策定委員会(委員1名)

静岡県看護協会(東部地区支部幹事1名)

静岡県看護部長会(副会長1名)

静岡県看護連盟(御殿場エリア副エリア長1名)

御殿場看護学校(講師5名)

・診療関係

救急受け入れ件数と内容

脳神経系 8 件、循環器系 20 件、呼吸器系 30 件、腹部内因性 22 件、外傷系 10 件、中毒 3 件、その他 55 件 合計 148 件
患者送迎車稼働件数
外来患者送迎延べ 12,818 人

・発表研修等

学会発表等

・平成 23 年 6 月 30 日 札幌コンベンションセンター
第 19 回日本慢性期医療学会

「職員の腰痛対策に取り組んで」

高橋 美紗都 (看護助手)

・平成 23 年 7 月 26 日 大宮ソニックシティ
日本看護学会 老年看護 学術集会

「認知症患者の攻撃的行為に対する看護師の思い」

角田 栄美子 (看護師)

・平成 24 年 1 月 28 日 男女共同参画センターあざれあ
静岡県看護協会看護研究発表会

「認知症患者の攻撃的行為に対する看護師の思い」

桑原 由美子 (看護師)

・平成 24 年 2 月 5 日 沼津市立図書館
静岡県看護協会東部地区支部

「ケアミックス病院でのクリニカルラダー活用における阻害因子」

瀬戸 香奈子 (看護師)

院内院外研修

より質の高い医療サービスをめざし、医療安全対策委員会、院内感染委員会、防災対策委員会、看護課教育委員会、新人看護職員研修等、院内研修 64 件を行いました。また、各種団体の院外研修会に公私にて延べ 102 件に参加しました。

資格取得

ICLS 看護師 2 名

介護福祉士 看護助手 2 名

栄養サポートチーム研修 医師 1 名、薬剤師 1 名、管理栄養士 1 名、看護師 1 名

上級救命講習会参加及び認定

6 . 東部病院の事業

収支状況

平成23年度の医療収入は、外来診療収益が 697,471 千円(予算比 6,231 千円)、入院診療収益が 385,842 千円(予算比 4,1952 千円)となり、賞与引当金並びに退職給与引当金(28,669 千円)を計上しておりますが、当期損益は 28,340,015 円(予算比 36,436 千円)の減収・減益 となりました。

常勤の透析管理医師の補充に有効な手立てがとれず、さらに常勤医師の開業退職準備等で扱い患者数が減少傾向で推移いたしました。

外来は、外科の患者数が増加した以外は透析部門をはじめ各科とも患者数減となったため、一日平均患者数 164.7 人で前年比 1.7 人の減となり、予算値こそは達成しましたが、前期比に未達(前期比 15,984 千円)でした。

入院は、年間延べ在院患者数は前年比 1195 人となり大きく減少いたしました。

常勤医師の補充問題および平均在院日数が、16.9 日と短縮されたことにより、外科及び消化器科の患者数が大幅に減少した結果、一日平均入院患者数は 33.0 人と前期比 3.4 人減となりました。(予算達成患者数割合 97.3%)

入院診療収益向上までにはいたりませんでした、(前期比 21,623 千円)、24 年1月から入院基本料の看護基準を 10:1 に引上げ、一人当たりの診療単価は 3,300 円の引上げが図られました。

医業費用では給与費は、医業収入構成比 60.3%と、労働生産性が低く、診療単価引き上げの一策として、看護基準の引き上げを目的に看護師の増員による常勤職員給与・出向費・職員被服費等が増加いたしました、今後看護基準引上げ効果が顕れてくるものと考えます。

なお、期中にCTが故障し、管球を含め高額な修繕費をかけるよりは、診療点数の増加等も考慮し、GE製16列CTに更新いたしました。

これにより、減価償却費及び固定資産除却損が増額及び発生(8,435 千円)しております。

建物等の老朽化による修繕費も年々高額になってきており大規模修繕費引当を検討する必要がでてまいりました。

一般透析及び透析技術を応用した、アフエレーシス治療、白血球吸着療法(L-CAP)、LDL 吸着療法、二重ろ過血漿交換療法(DFPP)、腹水濃縮ろ過再静注などを72例実施し、御殿場・小山地域の高度透析センターの役割を果たしています。

平成 23 年度活動状況

1 . 広報広域活動

- (1) 広報紙発行回数 4 回、医療関係機関施設あて 5 4 箇所
- (2) 院外講師
 - 花田医師 (血管外科) : 多数
 - 猿渡 南江 (管理栄養士) : 4 回 (社協、企業等)
- (3) 東部病院フェスタ シャくなげ祭 (中止)
- 2 . 看護学校等講師派遣
 - 御殿場看護学校講師 5 名
 - 東部看護学校講師 1 名
 - 東海大沼津校講師 1 名
- 3 . その他の講師
 - 今年度はなし
- 4 . 実習受入れ
 - 1)
 - 御殿場看護学校 3 年生 在宅実習看護論実習の一部 (透析、外来、統合) 2 単位 (90 時間のうち、21 時間)
 - 5 月 ~ 11 月 3 年生 26 名
 - 御殿場看護学校 9 月 ~ 3 月
 - 2 年生 成人・老年実習
 - 1 年生 基礎実習
 - 2) 職場体験実習
 - 原里中学校 2 年生 3 名 (8 月 24 ・ 25 ・ 26 日)
 - 3) 総合学習の一環
 - 御殿場西中学校
 - 4) 高校生 1 日ナース体験 2 名 (7 月 26 日)
- 5 . 研修受入れ
 - 1) 5 月 24 日 : 静岡日赤病院形成外科医師・看護師見学
 - 2) 富士病院透析室クランク : 6 月 1 日 ~ 30 日研修受入れ
 - 3) 平成 24 年 1 月 10 日 : 名古屋より看護師 2 名・ME 1 名, 望星第 1 より ME 1 名創傷外来見学
- 6 . 看護協会関連研修会参加
 - 1) ファーストレベル修了 1 名
 - 2) 看護研究 (基礎) 3 日間 1 名
 - 3) 災害支援ナース研修 (B) 2 名
 - 4) 新人基礎研修 2 名
- 7 . 静岡県看護協会行事協力
 - 5 月 1 4 日「看護の日、看護週間」記念行事参加
 - アロマコーナー担当 : 2 名

8 . 患者集団指導

1) 糖尿病

1 0 月 2 6 日 : 運動療法

1 1 月 1 1 日 : バイキング方式栄養指導

1 2 月 6 日 : シックデイ時の対処方法について

2 月 2 2 日 : 岡本医師による「合併症について」

2) 透析

12 月 7、8 日 : 震災に備えて (災害対策マニュアル作成とその説明)

1 月 1 8 日 : 災害伝言ダイヤルの試行

9 . 研究発表等

1) 院内研究発表会

病棟 : 「術前患者のオリエンテーション」

透析室 : 「透析患者の水分管理に EASE プログラムを用いての効果」

外来 : 「インターフェロン療法に伴う意欲継続への支援」

その他 : 新人看護師ケーススタディの発表 2 例

2) 院外

第 2 回静岡県創傷研究会 1 名

3) 医師学会発表等

花田医師 : 多々

10 . 院内研修

医療安全管理、感染対策研修会 年 6 回

DM、CKD、メタボ対策、消化器疾患の看護、循環器疾患の看護、フットケア、再生医療勉強会、接遇研修など 年 30 回

合同カンファレンス 年 12 回

MR 勉強会及び症例検討会 月 1 回 (計 12 回)

看護教育

看護研究

看護診断 (看護記録含む)

疾患等の基礎教育

新人教育

プリセプター研修

助手研修 9 回

11 . 院外研修

看護部 : 75 件 (延べ 133 人)

他部署 : 17 件 (医師を除く)

12 . 資格取得

弾性ストッキングコンダクター 1 名

糖尿病療養指導士 1 名

普通第 1 種圧力容器取り扱い作業主任者 2 名

精神保健福祉士 1 名

看護師 1 名（今井）

看護必要度評価認定テスト合格 4 名

13. 災害時訓練等

7 月 26 日：防火訓練

1 月 18 日：震災時初動チェック訓練

14. ボランティア活動

がん患者支援リレー・フォー・ライフ静岡

透析室：3 名

15. その他

1) 平成 23 年度より看護実習指導病院の認可を受け、スタートする

2) しゃくなげ祭（健康フェスタ）は震災の影響にて中止となる

3) 看護基準を 1 月より 13:1 から 10:1 へ引き上げ

4) 手術内容 合計 135 件

透析関連：36 件

花田医師手術（血管外科、形成、整形、外科等） 97 件

再生医療：2 件

施術場所

・手術室にて	全身麻酔または、静脈麻酔 + 局所麻酔	66 件
	局所麻酔	50 件
・外来または病室にて	局所麻酔	19 件

7. 訪問看護ステーションごてんばの事業

前年同様、利用者は 110 数名ではありますが、訪問件数は 1 ヶ月平均 620 件で、前年よりも増えました。また夜間、休祭日の呼び出しが、193 件あり利用者の安心のための対応を致しました。

利用者の中には、ターミナルや医療処置のある方が多くなり在宅療養を継続する為に、訪問看護師の役割は以前にも増して重要になっています。

増える利用に対応するため、スタッフの増員も考えてはおりますが、訪問看護を希望する看護師は少なく、話があっても採用にはなかなか結びつかないため、引き続き労働環境の改善が課題となっています。

23 年度は亡くなられた方が 59 名ありましたが、登録者数には大きな変動はありませんでした。

サービスを向上させるため、サービス担当者会議には 1 年間で 138 件参加し、他との連携を積極的に図りました。

訪問看護推進事業として、東部管内のいくつかの訪問看護ステーションが連携して、訪問看護の電話相談をしています。当事業所も毎月1日参加して、地域とのつながりを密にしました。

各種支援活動として看護学校への講師派遣(1名)と地域に唯一の施設の為、御殿場看護学校学生は全員5日間の実習を行なっております。更に東京衛生学園専門学校看護学科(通信制)の学生、静岡県立ガンセンター主催の認定看護師教育課程臨地実習1名を受入し、将来の看護師に在宅の重要性を教育しました。

公的任務として前年度に続き、御殿場市介護保険運営協議会(委員1名)に任命され、職務を遂行しております。

8. グループホームごてんばの事業

東日本大震災以後の計画停電などにより、入居者の方々の落ち着かない不安な毎日と、いつ来るであろう大震災の不安の中、一人夜勤をしなくてはならない心細さなどで体調を崩す職員もあり、グループホームの空室があっても募集をかけられなかった時期もあり、本年度は赤字となってしまっています。

しかし、この震災により何が必要であるかが明確となり、今後来るであろう大震災に備えておく物など揃えることが出来ました。

まず、発電機、ガスコンロをはじめ細々としたものを準備することができ、富士病院の防災担当者をまじえた話し合いの機会を設けました。

地域の民生委員の方々には、独居の方々の避難所として提供できることや温かくて柔らかな食事の提供ができること、地域の中でのグループホームの役割であることを伝えました。

昨年寄贈された車椅子乗車2台が乗れる福祉車両で乗り降りがスムーズとなり、病院受診、花見、外食など色々できるようになりました。

職員の関係では1名が介護福祉士の資格試験に合格いたしました。引き続き24年度でも数名の受験予定があるため、後押しをしていきます。

職員の研修においては、「オムツを外し尿失禁を改善」に参加、職員全員でオムツ体験、尿取りパットの体験を行いました。

全員が「嫌な気持ちだった。恥ずかしい。」との感想を持ちましたが、失禁を少なくし、排泄はきちんとトイレでできるような介護を目指そうと話し合っていました。

また「身体拘束及び虐待防止」などの研修に参加し、言葉かけ態度などに注意しています。